

Yuzo Ishiyama Biography (1/2)

"0dB"(ver.01) at DDD AOYAMA CROSS THEATER / Japan photo by Yohta Kataoka



石山雄三

パフォーマンス・メディア・アーティスト／コレオグラファー

サウンドやインスタレーション、そして身体の動きや映像を統合したパフォーマンスを、これまでも多数発表してきている。

1990年代より、**メディアアート・パフォーマンス・カンパニー 'nest'** の主要メンバーとして、パフォーマンス作品を作り始める。

2000年には、共同演出した作品『**Circulation Module**』が**ミュンヘンのフェスティバル 'dance'** に招聘され、翌年には**ヘルシンキの KIASMA (コンテンポラリーアートセンター)** に招聘される。

また彼はこれまでも多くの国際的なコラボレーションに参加してきている。

オランダのダンスカンパニーと共同制作した作品『**Linkage**』では共同演出を担当。**アムステルダムの 'JULIDANS' フェスティバル**で初演され、後に'**ニュージーランド・フェスティバル**'に招聘されている。

Yuzo Ishiyama Biography (2/2)

映像を大胆に導入し、石山が演出／振付をしたダンス作品『QWERTY』を**新国立劇場**で発表後（2006年）、**アーティスト・コレクティブ 'A.P.I.'**を組織。

翌年、この作品は、**フランスのデジタルアート・フェスティバル 'Bains Numériques'** に招聘される。

作品はその後、**'Panorama festival'**、**'FID'** 等より招聘され、ブラジルツアーも行なっている。

2009年、ビデオのマルチプロジェクションを用いたダンス作品『radi-』を、**川崎市アートセンター**で発表（演出・振付・出演）。

この作品は、**スロバキア／コシツェの 'New Dance Days'** フェスティバルのオープニング作品に選ばれる（2013年）。

2年後、この作品の映像版は、**ケベックシティ（カナダ）での 'Musée de la Civilisation'** で招聘上映された。13ヶ月ものロングランであった。

2011年にはフィンランドに長期滞在して、国際共同制作ダンス作品『CatB』を発表（演出・振付）。（**欧州文化首都 TURKU2011 公式プログラム**）

同年、**新国立劇場バレエ団**にゲスト・コレオグラファーとして起用されて、作品発表。

2016年からは『OdB』プロジェクトを開始する。

出演者も観客もヘッドホンをつける「無音」ダンス作品を連続発表。「臨場感とは、一体何なのか？」と観る側に問いかけた。

東京の**スパイラルホール**で発表された『SHGZR-OdB』（演出・振付・出演）は特に評価が高かった。

また「マシンとヒトとの'対話'」を考えるシリーズ・クリエーション『./ [dot slash]』（演出・振付・出演）では、2020年にドローン、翌年にはムービングライトの振付をしている。

2022年はコンサートとダンス公演のボーダーを消し去るライブ作品『S.S.S.S.』（演出・振付・出演）を発表。本作から身体の動きと音楽演奏との「新しい」関係を提示し始める。

2024年初頭には『(NO W)AVE』（演出・振付・出演）を発表。ダンサーとミュージシャンの境界が無きものになってしまうパフォーマンスとなった。

// e-mail: ishiyama@info-api.com // phone: +81 3 3408 4222 // address:
2-24-4-303 Jingumae Shibuya-ku Tokyo 150-0001 Japan // [https://
www.info-api.com](https://www.info-api.com) // <https://www.fb.com/YuzoIshiyama.API> //

Yuzo Ishiyama Works (1/2)

>> "(NO W)AVE" - 2024~

- R's ART COURT 公演 -2024

>> "S.S.S.S." - 2022~

- R's ART COURT 公演 -2022

>> ". / [dot slash]" プロジェクト - 2020~

". / [dot slash] ベータ版 "

代々木パーク STUDIO 公演 -2021

". / [dot slash] アルファ版 "

映像作品 -2020

>> "OdB" プロジェクト - 2016~

"SHGZR-OdB"

Spiral Hall 公演 -2018

"OdB"(ver.01)

DDD AOYAMA CROSS THEATER 公演 -2017

"OdB / Prototype"

アート・フェスティバル "六本木アートナイト" 招聘 -2016

>> "CatB" - 2011~

(フィンランドのアーティストとのコラボレーション・ダンス作品)

- フィンランド・トゥルク市にて制作

- "TURKU2011" (欧州文化首都フェスティバル) オフィシャル・プログラム公演

>> "radi-" - 2008~, 2013~ (マルチメディア・ダンス作品)

- プロトタイプ版/アートフェスティバル "gene" (六本木ヒルズアリーナ) 招聘

- 川崎市アートセンター公演 (クリエイションサポート事業選出)

- ダンス・フェスティバル "New Dance Days" (スロバキア) 招聘

- 映像版 / Musée de la Civilisation (ケベックシティ/カナダ) 招聘

Yuzo Ishiyama Works (2/2)

>> "QWERTY" - 2006~, 2013~ (マルチメディア・ダンス作品)

- 新国立劇場 "Dance Exhibition 2006" 招聘
- デジタルアート・フェスティバル "Bains numériques #2" (フランス) 招聘
- ダンス・フェスティバル "FID" (ブラジル) 招聘
- ダンス・フェスティバル "Panorama Festival" (ブラジル) 招聘
- 新国立劇場バレエ団より招聘
- ダンス・フェスティバル "New Dance Days" (スロバキア) 招聘

>> "SU" - 2006 ~ (マルチメディア・ライブアート作品)

- "Dance and Media 2006" (東京) 招聘
- ソロバージョン/フェスティバル "Bains numériques #2" (フランス) 招聘

>> "LinkAge" - 2000 ~ (マルチメディア・ダンス作品) (オランダのカンパニーとの共同制作)

- "Julidans" フェスティバル (アムステルダム) 招聘
- "New Zealand Festival 2002" (ウェリントン) 招聘

>> nest "Circulation Module" - 1998 ~ (マルチメディア・パフォーマンス作品)

- "PARK TOWER NEXT DANCE FESTIVAL 97" (東京) 招聘
- "dance 2000" フェスティバル (ミュンヘン) 招聘
- "ARS01" フェスティバル / KIASMA (ヘルシンキ) 招聘



"SHGZR-0dB" at Spiral Hall / Japan photo by Yohta Kataoka

Yuzo Ishiyama
Works (photo)



"QWERTY" at New National Theatre, Tokyo / Japan photo by Yohta Kataoka



"0dB"(ver.01) at DDD AOYAMA CROSS THEATER / Japan photo by Yohta Kataoka



"radi-" at Kawasaki Art Center / Japan photo by Yohta Kataoka

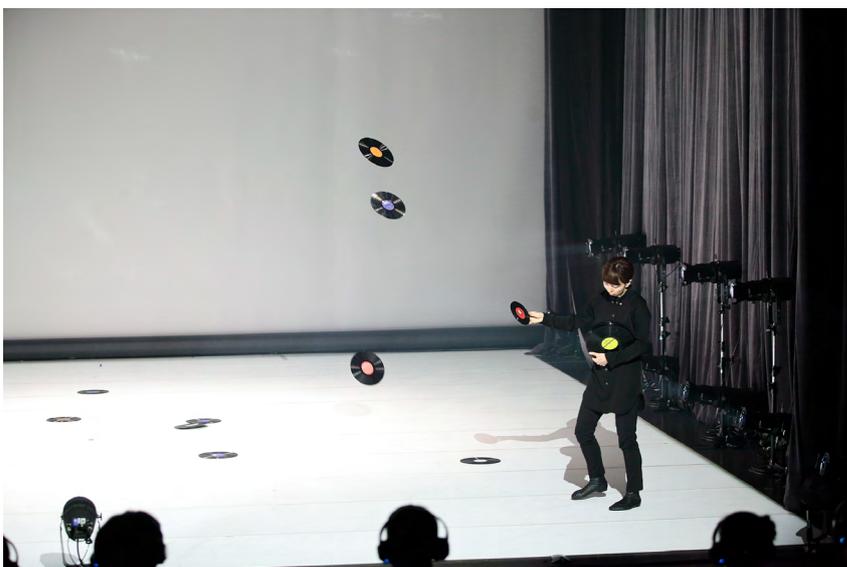
Yuzo Ishiyama
Works (photo)



"S.S.S.S." at R's ART COURT / Japan photo by Yohta Kataoka



"QWERTY" at 'Bains Numériques #2' / France photo by Yohta Kataoka



"SHGZR-0dB" at Spiral Hall / Japan photo by Yohta Kataoka

Web Media
掲載実績

MUST Article

Dance performance
"(NO W)AVE"
ノーウェイヴ

2024.
1.7 (sun) 18:00
1.8 (mon-holiday) 15:00+18:00

@ R's ART COURT

Ticket: adv 4,000yen // door 4,500yen

Concept/Direction: **Yuzo Ishiyama**
Original Soundtrack: **CRAZKNY**

Yuzo Ishiyama / A.P.I.
www.info-api.com

全員、「孤立」

photo: "00D" by Yohta Kasaka

【インタビュー】アーティスト・コレクティブ=A.P.I.の石山雄三が提示する、括弧書きの（現在）と「孤立」の拡張性

インタビュー

< musit >

<https://musit.net/interview/api-nowave>

あなたの「読みたい・観たい」がここにある！

カンフェティ シアターウェブマガジン 「カンフェティ」とは

新着ニュース | シアター情報誌カンフェティ | ウェブマガジン限定 | 購入者限定！特別インタビュー | 公演チケットサイト「カンフェティ」

【稽古場レポート】2024年の幕開けに、体感したい。ダンスと音楽、アートのカテゴリーを軽々と越境するA.P.I. 石山雄三の新作「(NO W)AVE」

2023.12.15
曲 (NO W)AVE, A.P.I., 平多理恵子, 石山雄三, 稽古場レポート, 舞台・演劇

HOME > 新着ニュース > レポート > 【稽古場レポート】2024年の幕開けに、体感したい。ダンスと音楽、アートのカテゴリーを軽々と越境するA.P.I. 石山雄三の新作「(NO W)AVE」

f t LINE

フリーペーパー【カンフェティ】

アーティスト・コレクティブA.P.I.の新作「(NO W)AVE」が来年の1月7日と8日、大久保のR's ART COURTで上演される。開催まで1ヶ月に迫った11月末に稽古場を訪問した。

< Confetti / カンフェティ >

<https://magazine.confetti-web.com/uncategorized/50530/>

Web Media
掲載実績



< CINRA.NET >

<https://www.cinra.net/interview/201804-shgzr0db>



< Confetti /カンフェティ>

<https://www.confetti-web.com/sp/feature/article.php?aid=252>

Review On the web

最新のテクノロジーを駆使したパフォーマンスやアートプロジェクトを見ることはよくありますが、100のうち90まではなんの印象も残りません。

残りの9は見たことのないものと出会えた驚きは感じますが、「で？」と。そこからなにか刺激を受けるようなことはありません。

今回の作品はぼくにとっては100のうちの1の、テクノロジーと表現がキチンと出会って手を取り合って先に進んだ幸せな作品だと感じました。

田中 稔彦 (ライティングデザイナー)

[https://www.facebook.com/bungou163/posts/1253121924791547?__xts__\[0\]=68_ARCFgm05KENEa8klwKVy03WBx6Y2rTCIr-PmSoFtLflvukU1MFOaCEv9CSHgFbC79fwFpRXNyX8ltH06P3xLuRqKIRH7hZpyZ-55FjGE64d6wrAIXMrWK58Exv_TsQp0X11u_tP_TaicVzjDzZp6lq_PJleOD23MU2vP9PxU6cT6C6J8QJwE0LjgVmVex0loQyF8w4ZHg-fRQtQ3YtIHGwSqsc05z0_PW1TbDJNzrrTfuegPfsr19B15wJVt5X5gZ3YcS6SHk6JvKjNwT3WlnYJALHMeb1EKjd3o0hcMulmZPB8IESEcLiIFYNccUeDGhDRV-hkTobbJHu0t0NIM4UTA&__tn__=r](https://www.facebook.com/bungou163/posts/1253121924791547?__xts__[0]=68_ARCFgm05KENEa8klwKVy03WBx6Y2rTCIr-PmSoFtLflvukU1MFOaCEv9CSHgFbC79fwFpRXNyX8ltH06P3xLuRqKIRH7hZpyZ-55FjGE64d6wrAIXMrWK58Exv_TsQp0X11u_tP_TaicVzjDzZp6lq_PJleOD23MU2vP9PxU6cT6C6J8QJwE0LjgVmVex0loQyF8w4ZHg-fRQtQ3YtIHGwSqsc05z0_PW1TbDJNzrrTfuegPfsr19B15wJVt5X5gZ3YcS6SHk6JvKjNwT3WlnYJALHMeb1EKjd3o0hcMulmZPB8IESEcLiIFYNccUeDGhDRV-hkTobbJHu0t0NIM4UTA&__tn__=r)

ダンサーには精密さが求められ、陶酔を断ち切るために、断続的な動きもプラスに働いていた。身体の実在感がしっかりとあり、見応えがあった。

乗越たかお (ダンス批評)

<https://twitter.com/NorikoshiTakao/status/994398125392461824>



"/ [dot slash] -beta version" at YOYOGI PARK STUDIO/ Japan photo by Yohta Kataoka

Review On the web

音と舞台の主従関係がすごく曖昧で、非常にスリリングでした。

(...)

変わった試みかと思いましたが、作品として無理矢理な部分や不自然さは全く感じずとてもよい体験でした！鑑賞後の後味は意外とさわやかでした。

相川 敬太郎 (グラフィックデザイナー)

<https://www.facebook.com/photo.php?fbid=1696862997064959&set=a.279612458790027&type=3&theater>

SHGZR-0dB は、会場の空間までもを含め、まさしく「意識の芸術」だったと思う。音楽やダンスのパフォーマンスはもちろんのこと、照明による影の動きから、マイクで拾われる舞台上の動作音、お客さんのつけているヘッドホンの光の点滅に至るまで、細部にわたり意識が行き届いており、壮観でした。

永田哲郎 (エッセイスト)

https://note.mu/unkodayo/n/n57dd24e53162?fbclid=IwAR3pZwGpmBKdUVk23KrEoFbxVjLv-kN_a_kKVpENXi0aa4iXrojm09e2TIU



"CatB" at 'TURKU 2011' (European Capital of Culture) / Finland photo by Yutaka Endo

"DDD" 2017年7月号 (ダンスマガジン/日本)

『OdB』では「臨場感とは、一体何なのか？」という問いかけを、鮮烈に観客に投げかける。現在、いかに我々が「思い込み」にとらわれて、アートや「世界」に接しているか、という事実も突きつけた。

(...)

これこそが都市生活者のリアリティに基づく「コンテンポラリー」なダンス。「汗をかかない」ダイナミズム、「トーキョーダンス」だ。

"The Slovak Drama Journal KOD" 2013年12月号 (シアターマガジン/スロバキア)

<日本語訳>

メディアワークによる光で作られたバーチャルスペースは、切り取られた「劇場空間」として、モノクロームのダンサーに差し出される。

絶え間なく明滅するインタラクティブなエフェクト、そしてグラフィックの「虚構」のネットワークの中で、ダンサー達は過大になることもなく、もちろん消え入ることもなく、その空間の中でそれぞれにダイナミックに動きを繰り返していた。

振付の構成は、内に秘めた身体性、人間の孤独の表現、そして機能的かつ音楽的なメディアワークとリンクした動きの柔軟性という点で、特徴があった。

通常はメディアワークと相容れない生身の出演者の動きと、一体となった様々なアイデアは、コンセプチュアルなダンスアートという意味において、美しさという点では非常に効果的であった。

Peter Mato 著

"Turun Sanomat" 2011年3月24日号 (新聞/フィンランド)

<日本語訳>

"CatB" の欠くことの出来ないテーマの一つに、エリック・レイモンドの論文「伽藍とバザール」(1999年) があげられる。

(...)

"CatB" は2つの方法(伽藍方式とバザール方式)によってもたらされた、社会関係の姿の複合体として見る事が出来る。ニナ・アイラクシネンとヨナ・アールトネンに加えて、上田創と深井三美 - この二人が素晴らしい - の4人のダンサーは、都市空間での様々な出会いを表現し、時には暴力的にもふるまう。しかしオープンな対話も見られ、その力の方向性は変えられてゆくのだ。

(...)

各ダンサーの動きのクオリティは確かなものがあるが、機械的な反復も、動きそのものや幾何学的な振付の構成の中に見られる。(同時上演された)"Sansui" と "CatB" は共に、その変化し続ける動きのポキャブラリーに於いて魅力的であった。

Kaisa Kurikka 著

"Jornal do Brasil" 2008年10月31日号 (新聞/ブラジル)

<日本語訳>

我々がよく目にするのは、それぞれの国のありがちなダンスのイメージだ。

(...)

ユウゾウは別の切り口。彼は「過去の日本」でクリエーションしているのではなく、「未来の日本」で考えている。

Review Mag&Newspaper

"La Terrasse" 2007年10月3日号 (カルチャーマガジン/フランス)

<日本語訳>

デジタル技術に文化そのものが傾倒している日本では、もはやダンスは舞踏だけのことではない。その事実は Qwerty でコレクティブ A.P.I. が証明することであり、その作品には、ダンス・パフォーマンスと目を見張るようなインスタレーション空間を作り出すマルチメディアがあるのだ。

"Danser" 2007年10月号 (ダンスマガジン/フランス)

<日本語訳>

石山雄三は言うなれば先駆者である Dumb Type の後に続くアーティストの一人である。

この日本人の作品は「表現」することに拘泥している訳ではない。ここでは、形式的な意思表示やそれに類するものではなく、プロジェクト全体のデザインというものが重要なのである。彼の作品は視覚的なものと聴覚的なものを通して、(ダンスに) 全く新しい解釈をもたらしているのである。

(Dominique Roland インタビュー / Philippe Noisette)



"/ [dot slash] -beta version" at YOYOGI PARK STUDIO / Japan photo by Yohta Kataoka